

10月6日

サヨナラ原発福井ネットワーク

連絡先：越前市入谷町熊の手 山崎方

TEL 0901627118771 mail: kumanote@gn.tn.ne.jp

郵便振替口座：0078019140314



看板倒れの

「新エネルギー戦略」

山崎隆敏

民 主党政府は、二〇三〇年の原発割合を0%にし、もんじゅも廃止する「新エネルギー戦略」を閣議決定すると発表しましたが、その二日後には、もんじゅは存続となり閣議決定も反故にされました。

「30年代原発ゼロ」新戦略

新増設せず・40年廃炉目標達成は可能

【東京6日電】菅首相は6日、閣議で「30年代原発ゼロ」の新エネルギー戦略を決定した。30年代末までに原発をゼロにする目標を掲げ、40年までにもんじゅを廃炉にする目標も掲げた。菅首相は閣議後、記者団に「30年代末までに原発をゼロにする目標を掲げ、40年までにもんじゅを廃炉にする目標も掲げた」と述べた。

2012.9.15 朝日新聞

そもそも原発割合を0%としつつ再処理工場は稼働するという矛盾があり、しかも「新エネルギー戦略」は3年

ごとの見直しがあるため、当初より選挙対策の単なる「宣言」に過ぎないと揶揄されました。しかし、たとえ「宣言」でも、閣議決定されれば自民党政権でも世論を気かけ覆せないのではと、私はかすかな期待を寄せていました。それが、新規の原発を認可するに至っては、中日新聞の論説が書くように、まさしく「矛盾ではなく欺瞞」です。次の選挙で民主党が政権から滑落するのは自業自得としても、さりとて、自民党が政権に返り咲けば、フクシマ以前の原子力推進体制に後戻りする可能性は極めて高いでしょう。

◆何が変わるべきか？

ところで、私の勉強会では、脱原

発依存社会に向けた政治の優先すべき課題として、①電力改革②エネルギーの効率化③自然エネルギーの促進、と順位をつけて説明しています。電力改革には、「電力の完全自由化」「総括原価方式の廃止」「発電電の分離」の三つがあります。併せて、自治体の判断を狂わす（精神の荒廃をもたらす）「電源三法交付金制度も廃止」すべきです。

「自然エネルギーの普及には時間がかかるため、当面は原発が必要」というのが原発推進派の論拠ですが、①電力改革が貫徹すれば、②、③もおのずと促進します。また、③より②を先にした理由は、②が進めば、それだけで電力需要は激減し、原発はたちまち無用の長物となるからです。

世界的な省エネ研究者のエモリ・ロビンズ博士は、日本を含む先進国の四分の三の発電設備が過剰であると指摘しています。湯水のごとく浪費していた電気を節約し、捨てられていた廃熱の活用を優先させることこそ

が、CO₂削減にも有効で、真に地球に優しい営みと言えるでしょう。それにエネルギー効率化には大きな投資を必要としません。すでに多くの企業が取り組みはじめています。

たとえば、トヨタ自動車は、愛知県内の11の工場に19基の自家発電(天然ガスのコ・ジェネ)に加え8基を増設し、自家発電率を20%から30%に上げます。天然ガス価格の高騰でも「発電機の燃費向上で、電力会社から買うのと比べコスト増にはならない」そうです。

キリンビールは、滋賀工場に都市ガス燃料の三、六五〇KWの自家発電を新設し60%をまかなうほか、全国の9工場のうち8工場を導入し、総電力使用量の約50%を削減するそうです。

また、コマツは二〇一〇年度比で電力消費量50%削減を全社的目標に掲げ、年平均約80億円かかる12工場の電気代を36億〜48億に引き下げ、節電によるコストダウンで競争力の向上をめざすそうです(油圧ショベルの

主力生産拠点・大阪工場にLNG自家発電設備を導入し7月から稼働)。

◇アメリカからの圧力

さて政府は、二〇一四年に「電力の完全自由化」と「総括原価方式の廃止」を公表しました。しかし、肝心の発送電分離については、電力会社の抵抗で、所有分離は断念。会計上の別会社という不完全な形態になりそうです。そうなれば、新エネルギーの促進の足かせとなります。昨年成立した「新エネルギー法」には、電力会社の判断で買い取りを拒否できる条項もあるのです。

『30年代の原発割合0%閣議決定』の動きに米国が圧力をかけたと報道されています。アーミテージ元米国務副長官は、「原発を慎重に再稼働することは日本にとり正しくかつ責任ある措置だ。原発は日本の包括的安保の不可欠な要素」と述べたそうですが、これは米国全体の意思とい

うより、数年前に原発を復活させようとしたブッシュ一味の思惑にすぎません。

新エネによる電気の強制的な買い取りを電力会社に義務付けた米国の「パーパ法」ができたのは33年前のことですが、米国ではそれ以来新しい原発は1基も造られていません。米国には3万数千社の電力会社があり、電気は市場の商品として自由競争で売買されています。電力会社は建設コストの高い原発に手を出さなくなったのです。米国ではこのような法律制度に支えられて自然エネルギーが普及し、昨年度には原発の発電容量を超えるまでに成長しました。その一方で今年の8月、米国のオバマ政権は、使用済み核燃料の処分地を選定できないため、新規原発の認可を凍結する方針を示しています。これが米国の現実なのです。

米国ではブッシュ時代に、電力会社の借金を国が肩代わりする90%の債務保証を約束しますが、原発建設は

進んでいません（『福井の川と海と原発』を参照してください）。

米国だけではありません。仏国のアレバ社が関与しているフィンランドでの建設は予定より4年遅れ。建設コストは予定の二倍に上昇し、発注元の電力会社とアレバ社との間で係争に発展しています。

また、昨年9月、ドイツのシーメンスは原発からの完全撤退を宣言しました。そもそも原発は建設費用が過大で、廃棄物処分費用や事故を勘案すれば、国家の支援なくして経済的に成り立たない産業なのです。

◇『脱原発基本法』制定運動

フクシマの惨事を前にしてもまだなお、ブッシュ一味に脅されて、「原発は日本の包括的安保の不可欠な要素」などと考える国会議員（自民党や民主党）が多数を占め、この次の選挙でも顔ぶれが代わることはないと思われませんが、私たちはあきらめるこ

となく粘り強く行動してゆくしかありません。

その一つ、9月、衆議院に提出され、継続審議となった『脱原発基本法』の制定を求める運動を福井でも広げてゆきたいと思えます。『脱原発基本法』は、「遅くとも、二〇二〇年から二〇二五年までのできる限り早い時期に脱原発を実現すること。それまでの間においても、最新の科学的知見に基づき、災害の防止のための基準に適合していると認められた後でなければ運転してはならない」などを骨子としています。政府の「脱原発依存」なども法で縛りをかけなければ、たんなる掛け声に終わるからです。

◇行き先のない原発

先月、福井大学の学長や電力労組の幹部の方々と対話する機会がありました。脱原発など非現実的と主張する彼らに私は、「二〇三〇年に原発をゼロにするかどうか18年先の議

論をしているが、使用済み核燃料の行き場がない現状では、平均で数年後に全国の原発の運転ができなくなる。これは、むしろ推進派の皆さんにとって深刻な問題ではないのか。

西川知事が、原発の電気を享受してきた関西圏で引き取るべしと発言したところ、生駒市長などが手を上げた。しかし数日後には、やはり引き受けられないと陳謝した。これは文字通り首長の首が飛ぶ問題。原発の必要・安全論議の前に、この問題を直視するところから議論を出発しましょう」と対話を提案しました。残念ながら応えられませんでした。これは誰にも否定できない真実です。

また、福島事故の有無にかかわらず



1997.6.17 朝日新聞

頂です。

日本原電(株)は、約20年前に「廃炉のバイオニアを目指す」と社長が宣言しています。彼らは、来るべき廃炉時代に向け「廃炉ビジネス」で一儲けをたくらむ算段です。被曝者を大量に生み出しつつも社業の存続を優先させるのでしよう。

もちろん、わが国ではリブレースという方針があるため、跡地利用で新しい原発を建てるもくろみもありました。いずれにせよ、経営の存続を念頭に動いている彼らのほうが私たちよりも先を見越して考えていたのです。

二つ目は、たとえば浜岡2号(84万KW)では、解体処分で約27万tもの廃棄物が発生すると見積もられていますが、そのうち約1.3万t(4.9%)が「クリアランスレベル未満の放射性廃棄物」として再利用も可とされていることです。

クリアランスレベルといっても、「震災がれき」を再利用できる基準

値(二〇〇ベクレル/kg以下)の10倍もの値の放射性廃棄物(金属材料やコンクリート材)が、フライパンなどの日用品や一般建材として再利用されることが許されているのです。

社団法人・日本原子力産業協会事務所にはクリアランスレベル鉄製のベンチが置かれています。台湾のアパートで住民が被曝していた事件も過去にありました。

三つ目は、解体された大量の廃棄物の行き場がないことです。

約九、二〇〇t(3.4%)が地中処分の対象となる低レベル放射性廃棄物と推定される浜岡2号では、このうちの約百tの制御棒、炉内構造物、放射化金属および加工・再処理プロセス廃棄物等は、ドラム缶につめて深度50〜100mの地下で数百年管理が必要とされています。しかし、その行き先はありません。

また、廃液、フィルター廃器材、消耗品などの約一、二〇〇tは浅地中

ピット処分として、セメント等で固化した廃棄物を入れた二〇〇リットルドラム缶等に入れ、深度十数メートルの地下で約三〇〇年管理することになっていきます。これは六ヶ所村に送り込まれることになっていますが、そんなことが許されるのでしょうか。

大阪府大名誉教授の長澤啓行さんは、「労働者被曝や一般公衆の被曝を少なくするためには、放射性廃棄物の拡散や汚染されやすい環境へ放射性廃棄物を埋設処分させないことです。生み出されてしまった放射性廃棄物を埋設するのは放射性廃棄物の存在を見えなくするだけであり、管理放棄を前提にしているのです」と書いています。

ここから先は、行き場のない使用済み核燃料の受け入れ先の問題と合わせ、都市の皆さんも頭と胸を痛めながら議論していただきたいと思えます。

◆りぼーと◆

「福島子どもサマーキャンプ」

terraねつと福井 佐々本尚

7月25日から一週間の日程で福島からバスで8時間、遠い福井の地へ33人の福島の子も達がやって来た。寺の境内には水遊びをする子ども達の歓声が響き渡っていた。



体力的には大変な日々であったが、

無邪気に遊ぶ子ども達を見て、こちらまで癒された。

子どもが青空の下で無邪気に遊ぶ、こんな当たり前の光景を尊く感じるのは、福島の一部ではそれが当たり前にしてきたからだ。



悲しいかな人間は失いかけてしまわないと本当に大切なことが分からないようである。何はともあれ一週間色んな活動を行ったが、なんと言っても

海が一番良かったようである、福島の子も達は地元で海水浴に行くことは出来ない、海水浴のみならず、福島第一原子力発電所の事故以来、子ども達の生活は一変してしまった。

外で遊べない日々が続ぎ、家庭でも学校でも大人達は放射能の問題に頭を悩ませている、子どもを心配するあまり、ヒステリックになってしまう事もあるだろう。あれは駄目、これは駄目、食べちゃ駄目！ 今まで当たり前に行ってきたことを当たり前に出来ない生活を余儀なくされている。程度の差はあっても福島を生きる大

人は須く子ども達の健康を、将来を案じている。

しかし、小さな子には今起きている異常な事態を理解する事は難しい、ただ身近な大人達から伝わってくる不安や怒り、罪悪感や焦燥感と共にそそがれる愛情からのみ受けとめるしかないのである。

遠い福井の地でわずか33人の子も達が一週間過ごしたぐらいで、何が変わるというわけでもないだろう。それでも何かせずにはおられないものに突き動かされ沢山の方々がご尽力下さった。少なくともその方々は福島で必至に生きようとする「いのち」にふれることが出来たことと信じたい。

福島子どもサマーキャンプは「いのち」に鈍感にならねば生きられない現代の私たちをほんの少し敏感にしてくれる。一人でも多くの方がこのサマーキャンプに関わってください、一年でも長く続けられることを願って止まない。

来年もよろしくお願ひします。

◆ふれんず◆



渦 中嶋多恵子

脱原発を望む声が、人が、途絶えることなく増え続けている。それは大きなうねりとなり、渦となり

日本の淀んだ水を浄化し始めた。淀みきった水を浄化するためには必要な渦。

大きな渦も小さな渦もある。その水の一粒一粒が私達だ。

たった一粒だけ何処で舞う？

小さな渦と反発しあっている場合じゃない。

淀んだ水に埋没じゃもつとつまらない。

だって、歴史の転換期の真つただ中にいるのだから。

皆と手をつないで渦となり、淀みを

蹴散らし

澄み切った流れにするのが、今を生きる私達の使命。

新しき世の

生き証人になるのだから、楽しく舞わなきゃつまらない。

ノーマアふくしまこうのちづこ

駆りたてられるようにしてパレードに参加。そこで必然性があり、自然的に生まれた団体、その中の一人。会員一人一人が学びあい高め合う関係で成長していき、そのことが会の成長につながっていく。仲間が拡がり、脱原発運動が更にもりあがり、原発ゼロになる。見えざる放射能に怯えることなく、この地がこれからも安心して暮せる場でありますようにと、心から願っています。そのためにも、福島の状態を福島の方々から直接伺う機会を作ること、協力し尽力したいとおもっています。はちどりのひと

しづく ・大河の一滴・枯葉も山の賑わい精神にて連なっています。

「フクシマ」論から 嶋田千恵子

開沼博著「フクシマ」論をようよう読了。社会歴史的検討です。3・11後に書かれた補章で

1 一八九五〜一九四五年 植民地化を進める

2 一九四五年から一九九五年対内的(地方)植民地化

3 新自由主義による植民地化の完遂と国家権力が国民の末端まで浸透したという捉え方が非常に興味深いところ。

吉見俊哉氏が「成功物語の裏面で、米支配が内面化した。原発はその象徴である」という見出しの下の意見表明が印象に残っています(朝日新聞 九月四日)。

「原発0」がアメリカの意向で閣議決定されなかったというニュースがこの後流れていました。

◆おしらせ◆

【出前上映会をしませんか?】

仲間を誘って鎌仲ひとみ監督の最新作映画「内部被ばくを生き抜く」の上映会を開きませんか?

まもりたい! 未来のために……4人の医師が語る経験・広島―チェルノブイリーイラクー福島。4人の医師は次の方です。

肥田舜太郎さん、鎌田實さん、児玉龍彦さんの3人の日本のお医者さん、チェルノブイリ後の子どもたちをずっと診てこられたベラルーシの小児科医のスモルニコワ・バレンチナさんです。

◎参加費は一人500円に+α
(会場費や事務費などの経費)

◎少人数でも出前いたします。

【お問い合わせ】五十嵐靖子

電話 (0778) 4211396

映画についての詳細はHPを。

www.naibuhibaku-ikinuku.com/



【ドキュメンタリー映画上映】

「ニッポンの嘘報道写真家福島菊次郎90歳」

※戦後、現場の最前線でシャッターを切り続けてきた伝説の報道写真家。福島なども取材。

十二月二十九日(土) 来年一月十二日(金)
メトロ劇場 福井市順化二―一十四
電話 (0776) 221772

※駐車カード提出で料金二、〇〇〇円



【福井県庁前金曜抗議アクション】
ちよっと待つて! 再稼働ストップアクション!

※毎週金曜日、大飯・美浜・高浜・敦賀など原発再稼働に反対する抗議にみんな集まれ! (雨天決行)

16時・福井県庁前マイクアップビル
(各自自由にスピーチ)

17時半・県庁周りデモ行進

(以上は原発福井コラボレーション主催)

問合せ: 〇九〇(七〇八三) 八九二一
18時: (福井県庁前) 関西電力地域共生本部前アップビル

サヨ原の運営会議は、毎月3木三曜日の午後7時。次回は10月18日、鯖江市アイアイ鯖江・健康福祉センター会議室。どなたもご参加ください。会場は毎月変わります。

★文中のクリアランスレベル廃棄物のベンチは、敦賀原発PRセンターにも置いてあります。福井の皆さん、ぜひ座り心地を試して下さい。